

❖ 県民の皆様より、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために奮闘する看護職への応援メッセージをいただきました。

#### 看護師のみなさんへ

最前線で頑張っておられる看護師の皆さんに敬意を表し感謝申し上げます。  
心無い人からの誹謗中傷等ある中、皆さんのご努力に頭が下がります。  
応援しております。頑張ってください。

酒田市 サンコーさん

#### 感謝を込めて

このメッセージを書いているのは、三回目の緊急事態宣言が都下に出されているときです。

新型コロナウイルスへの対応で、日夜厳しい医療の現場に立ち向かわれている看護職および医療関係者のご労苦に心から敬意を表し、感謝申し上げます。

私の娘も県外で看護師をしておりますが、医療保護具が十分に足りないときは、着替えもできず、若い女性が「おしめ」をして働いていたと聞きます。皆さんのご家族の方のご苦勞もひとかたではないでしょう。残念なことに医療関係者への偏見や心無い仕打ちがあることも知っています。東京では、看護師の子どもを預かる保育所が不足しているため、皆さんのような方を対象にボランティアで活動している保育所もあるそうですね。

私は、看護職の皆さんが安心と誇りをもって働けるように、政治や社会全体が皆さんを応援しなければならないと思います。

コロナの時代で問われているのは「人間の価値」だと思います。他者を守ろうとする崇高な気持ちと、自分だけは助かりたいと思う生物としての利己のはざままで人の心は揺れています。皆さんが命の最前線で自らを投げうって奮闘されていることに、いくら感謝を申し上げても足りません。けれども人は必ず覚えています。皆さんがしてくれたことを、掛けてくれた言葉を、投げかけてくれる微笑みから受け取る安堵を。どうか大変でしょうが、ご自分の体を大切にして職務に携わってください。本当にありがとうございます。皆様のご苦勞が報われて、一日もはやくコロナ禍が終息し、日常が戻る日が来ることを共に願っています。

板垣昌之さん(鶴岡市在住)

私は子供のころ、小児喘息の病状がありました。  
時々発作を起こしては、入院と退院を繰り返す辛い時期がありました。  
点滴などの治療は痛くて辛く、苦い薬も大嫌いでした。  
子供の私には、正直、病院が地獄のように思えました。  
そんな辛くて苦しい生活の中、一生懸命に処置と励ましをしてくださった看護師さんたちは天使に見えました。  
呼吸が苦しい時に優しく背中をさすってくださった感触と、優しく話しかけてくださったあたたかい気持ちは今でも鮮明に覚えています。

大人になった今は、喘息は落ち着いていますが時々別の症状で病院に通っています。  
今でも病院は緊張しますが、看護師さんたちとお話をしたりすると気持ちが落ち着きます。  
いつもお世話になり、本当にありがとうございます。

私の看護エピソードは以上になります。  
医療関係者の皆様は、コロナ禍の中、命と時間をかけて最前線で戦われていらっしゃる  
ことと存じます。  
私に出来ることは、日頃の体調管理に気を付けることとエールを送ることだけです。  
医療関係の皆様、応援しております。

山形市 A・Tさん

前略新緑のまぶしい季節を迎えた今日この頃です。

我が家は、私は福祉施設従事者、嫁、息子夫婦は、市内で看護師として医療、看護職として働いています。

昨年からのコロナ感染症として、日中、最前線で奮闘している家族へ、一言エール。  
「いつかかならず笑顔が見られる日がきますように」

最後に、医療看護職を目指すかたに、コロナに負けず社会の役立つ方になってください。

米沢市 鈴木潔さん

## 『伝えよう 看護の魅力 つなげよう 看護の心』 応援メッセージ

夕飯の後片付けも終わらせ、ゆっくりネットニュースを眺めていると本日 5/12 が看護の日とのこと。そしてそれにちなんだこの応援企画を知り、私なりに書かせていただきました。

毎日のように新型コロナの感染ばかりが大きく取り上げられています、これまで私たちが患っている病気で苦しんでいる患者が減ったわけではありません。感染に怯えつつ病院に行く日々が続いています。

特に看護師ら医療従事者の皆さんは、その職場ゆえに感染リスクも高いものでしょう。でも、感染防止策をとりながらもこれまでと同様に温かく患者と向き合っているその姿には、感謝の気持ちしかありません。ありがとうございます。

今年の春、娘が山辺高校看護科に入学しました。看護師である妻の母校です。

昨年は新型コロナの影響で休校もあり、様々な学校行事が中止・縮小されるという普通ではない環境の中、進路を決めるにあたって娘は様々な将来の可能性を思い描き、「これからの自分が目指すべきことは何か」を本気で悩んだことでしょう。

そんななか、看護師として日々奮闘する母の姿(仕事で疲れ自宅でぐったりとしている姿も含め)をみて、何かしら感じるものがあつたと思います。

「看護師を目指したい」

その決意を胸に努力し無事に入学できた今、ツヤツヤの真新しい教科書を片手に、当時と今の教育内容や高校生活の違いなどなど、娘と妻は楽しくおしゃべりしています。

将来、山形の医療を支える礎として成長できるよう父として娘を応援するとともに、ともに子供を育て家庭を支える妻も全力で応援しています。

ガンバレ！

山形市 またちたとさん

収束の見えないコロナ禍での医療従事者の皆様には頭が下がる思いです。

2020年5月18日実父86歳で永眠しました。まもなく一年が過ぎます。

2020年の1月に入院した山形市の若宮病院の主治医の阿部先生、看護師の皆様にはとても暖かく父を見守っていただきましたので、エピソードを投稿したいと思います。

2019年1月にアルコール依存症で入院治療し一時は回復したのですが8月には認知症を患い再び入院。2019年12月には施設に入所し安定したかと思いましたが、2020年1月再び入院、2月のコロナの影響で面会も制限されてしまいました。担当の看護師さんにデジカメで父の写真をお願いしたところ、「写真じゃわかりにくいから、動画もとってきましたよ！！」と受け取ったカメラにはニコニコ顔の父がうつっていました。それからは姉と私の写真を病室においてもらおうと「娘さんだよ～」の問いかけに答える父。時には不機嫌な父もありましたが、看護師さんの問いかけで返答する父でした。早くに母を亡くし私たちを育ててくれた父でした。そんなやり取りが続いていましたが、5月に入り不安定になり主治医の先生から夜の付き添いを許可され姉と交代で5日間付き添いました。様子を見に来てくださるたび、意識のない父に「娘さんいてくれていいね」と声掛けしてくれました。最後の日一度家に戻ったのですが、早めに戻った方がいいと連絡がきて最後は姉と見送ることができました。

ちょうど1年前の今日5月13日に夜の付き添いした日。18日が命日。新聞をみてふっと思い投稿しました。もしかして父がそうしてくれていっているのかもです。若宮病院の主治医でした阿部先生、看護師の皆様、改めましてお礼申し上げます。ありがとうございました。

(父阿部清、わたくし片桐紀子次女です。)さん

先日、初めて出産を終え、1人の娘のママになりました。持病もあり、大きい病院で出産させてもらったのですが、31時間の難産でした。検診では、特に指摘もなく過ごせたのですが、破水から出産まで、こんなに頑張って、しかもこんなに痛くて…なんて状況になるとは予想もしていませんでした。先の見えない長期戦を支えてくれたのは、お医者さんはもちろんですが、看護師さんでした。他の仕事もたくさんある中だったと思いますが、痛い腰をさすってくれたり、悲しくなって涙する私に励ましの言葉を掛けてくれたり…と感謝の気持ちでいっぱいです。忙しさを増やさないためにも、コロナ予防をしっかりとやりたいと改めて思いました。

山形市 みきていさん



ありがとうございます  
いっぱいです

他県で高校生活をした近所の娘さんが、四月から山形に戻り、市内の高等看護学校に入学、自宅から通学している。

少しうれしくなった。

前からその病院に傾聴ボランティアに通っている私は、あれこれ彼女に情報を仕込んで盛り上げた。

もしかしたら病院実習で、看護服の彼女に会う日がくるかもしれない…。

スポーツで鍛えた体力とガッツで、患者さんに信頼されるナースになってほしいと願っている。

今はコロナ収束にむけて全国の医療関係者は、

昼も夜もない試練の職場になっている。ご家族の負担やストレスはいかばかりかと案じられてならない。

入院患者と面会も不自由・外出もままならずの現実をどうきりぬけていくか、課題山積であるが、一緒にふんばって乗り越えていきましょう！  
応援しています。

山形市 加藤桂子さん